

締めは“全力校歌”

近畿支部

昨年11月10日(土)、大阪市の大阪キャッスルホテルで、同窓会から銭谷眞美会長、安田浩幸校長にご出席いただき近畿支部総会・懇親会を開催した。

出席者は来賓のお二人、現役大学生を含め39人。学生の参加を呼び掛けて6年目、幅広い世代の参加者となった。今回は下田学氏(昭和53卒)による大学生の就職事情と自己分析に関する講演があり、出席した学生たちは大いに参考になったと感想を述べていた。

その後の懇親会では、銭谷会長のご挨拶、安田校長から後輩の活躍と母校の近況報告があり、萬田耕先輩(昭和28卒)の乾杯発声で祝宴開始。歓談の話題の中心は昨年夏の金足農業の活躍。全試合応援に行った会員もおられた。地元の高校の活躍は故郷を遠く離れた我々にとって誇らしく、秋田に生まれてよかったとの声が多く聞かれた。

最後は、「全力校歌」とエールで中締め。半数以上がホテル内での2次会で旧交を温め、ここでも校歌を熱唱し再会を誓って散会した。(幹事長・藤田 誠=昭和47卒 記)



世代をつないで

津軽支部

昨年12月8日、「飲食 芝田商店」で平成30年度津軽支部総会・懇親会を開催いたしました。毎年この時期に開催しております。ここしばらく欠席されていた方や初参加の方を含め14人で少人数ながら、昭和36卒の方から平成30卒の方までほぼ3世代で語らうことができました。

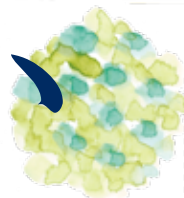
同窓会から佐藤悦紹企画委員長にお越しいただき、母校やふるさとの近況をお話いただきました。今はなくなってしまったという学食の思い出を語ったり、海外研修というかつては想像もできなかった企画に驚いたり、そしてその研修の参加者を選ぶための校内イベントに出場した人の体験談に感心したり、懐かしさと新鮮さが入り混じる会となりました。

支部総会・懇親会のご案内とともに送っている支部会報に平岡恭一支部会長の昭和44年卒同期会参加記を掲載したところ、県内の同期の方から温かい反響をいただきました。この記念写真の中に見覚えのある顔を見つけた方は(そうでない方も)、次回の会合に是非ご参加いただけますよう、お待ちしております。(幹事・成田 明子=昭和60卒 記)



つどい

TSUDOI



学びと酒と友ありて

昭和42年卒同期会・四二会

毎年9月の第1土曜日と決めている「四二会」。今回はお酒が入る前に少しばかり「学び」の時間を設けたため、午後5時のスタートとなった。

秋田市の協働大町ビルには80人の仲間がそろい、集合写真に収まった後、気合を入れて何とか校歌を5番まで歌い切ることができた。続く「学び」の時間、内科医の俵屋幸蔵君が「健康長寿の鍵～あの世に行くにも体力が必要～」と題してユーモラスに講演した。多くは日頃のわが身の不養生を思い知らされ、改めて「健康第一」の認識を強くしたようだ。

懇親会は、脳出血の後遺症を味方につけて17年、今回は夫人同伴ながら高知県から1人で車を運転して駆け付けた千葉徹君の力強い乾杯の発声で始まった。全国各地の銘酒を味わいながら会場はあちこちで談笑の輪が広がり、にぎやかな笑い声に包まれた。最後は元応援団長の池田和男君のリードで校友会歌を大合唱、次回もまたこの場所で再会しようとして誓って散会した。(石井 仁 記)



学食復活にエール

大潟村秋高同窓会

3月18日(月)、ホテルサンルーラル大潟を会場に第33回通常総会と懇親会を開催しました。この春の高校入試を突破し、4月から秋高生となる新入生とその父母らと、大学を卒業し社会人となって地元に戻ってきた会員らを含め合わせて21人が出席しました。

同窓会からは安田浩幸校長と郷土創生特別委員会の佐藤裕之委員長にご出席いただきました。安田校長から母校の近況を紹介していただき、佐藤委員長からは特別委員会で強力に推進している学食復活プロジェクトの進捗状況の説明がありました。同窓会での運営が間もなくスタートすること、農業者のメンバーの多い大潟村支部としてもこのプロジェクトに注目していきたいと思っております。

昭和30年卒から平成25年卒まで幅広い世代が集めた懇親会の締めは、恒例の校歌斉唱と新入生への励ましのエール、続いて佐藤忠浩支部副会長(昭和54卒)による万歳三唱で散会となりました。(事務局・遠藤 暁=平成2卒 記)

